

京都市西京区「ふらっと・西京」第3回開催後コメント

今瀬政司（京都経済短期大学准教授／NPO 法人市民活動情報センター代表理事）

◎テーマ「家事援助を考える。ボランティア？有料？」について

- ・地域の人たちが抱える課題をお互いに、また域外の人からも見えやすくすることが大事だと思います。課題を一つ一つ明らかにして、地域内外の担い手として期待したいターゲットを明確にして、呼びかけ仲間集めをして、その上でアイデアを出し合って、具体的にしていくことを図ることが大事だと思います。

◎テーマ「朝かゆ会をしたい！」について

- ・朝かゆを皆でしたいのか、コミュニティづくりをしたいのかなど、目的や具体の取組みを明確にしておくことが大事だと思います。ネーミングづくりから組織づくりや活動に入る方法もありますが、目的や取組みを具体的にしていって、そのイメージから自然に湧き起こる形でネーミングを付けて仲間を広げていく方法もあります。

◎テーマ「老化防止から健康へ」について

- ・「自らのこととして老化防止をして健康でいたい人」、「家族や友人・知人が老化防止をして健康でいてくれることを願う人」、「地域の中で社会の中で、老化防止をして健康でいる人が増えてほしいと願う人」、といったように、趣旨に賛同して協力し合う仲間づくりでは、どういう人たちの集まりをイメージするのも大事になってくると思います。

◎テーマ「地域のおたからたんぼう術」について

- ・地域資源を活かしたまちづくりの方法として、全国で広がりつつある「地元学」によるまちづくりを参考にするのも良いと思います。「地元学」は、熊本県水俣市で生まれたまちづくりで、「地元で学ぶ」「ないものねだりでなく、あるもの探し」のまちづくりです。学問としての“〇〇学”といった「地域学」ではありません。地元のお年寄りとお若者が一緒になって、「土の人」が「風の人」の知恵と力を借りて、「地元学」によるまちづくりができると良いと思います。

◎テーマ「自然発生的集団作り（行政の小学校区制で情報コミュニケーションが阻害されている）〈今は40年前と違う〉」について

- ・まちづくりの仲間づくりでは、「自治会などのような地縁や行政区をベースとしたまちづくりの仲間作り」とともに、「NPOなどのような地域課題のテーマ・分野をベースとしたまちづくりの仲間作り」がありますが、どちらも大事だと思います。それらが一緒になった取組み方もあります。その地域が抱える課題や担い手の考え方や事情に応じて、臨機応変に仲間作りを行うことが大事だと思います。

◎テーマ「阪急高架下がこんな風になったらいいな」について

- ・鉄道の高架下の活用は、地域の未利用資源の一つであり、あるいは既に使われている場合でも新たな使い方への変更を模索することが求められる場合もあります。鉄道高架下の利活用の方法は様々で一長一短です。利活用したいと考える者が、その利活用したい方法のアイデア・素案を提案してみても、賛同者、協力者を募って一緒になって、その上で具体的に計画を立て、実現化を図っていったり、またメリットとともに生じることが予想される問題・課題の解決策も模索しながら進めていくことが大事だと思います。